（別記）

令和８年度大仙市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市は、豊かな自然のもとで恵まれた土壌と水利条件、気象条件等により、県内でも有数の稲作適地・良質米産地としてその地位を築いてきた。

しかし、近年、農業者の高齢化や後継者不足、食の多様化による米需要の減少、産地間競争の激化等、稲作を中心とした本市農業には大変厳しい現状となっている。

このような状況を踏まえ、本市水田農業の振興方針として、稲作に依存した水田農業経営からの脱却に向けた複合経営の推進並びに担い手の確保・育成を主な取り組みとして掲げ、安定的かつ持続的な発展を目指すこととする。

複合経営の推進については、需要に応じた米生産と供給体制の構築を目指すとともに、変化する主食用米の需要に対応できる転換作物として、加工用米・新規需要米・大豆・麦・高収益作物の野菜・花き等の組み合わせによる複合経営の推進を図り、団地化や土地集積による高効率・低コスト化の推進等に取り組むこととする。

また、担い手の確保・育成については、農地中間管理機構を活用し農地の利用集積による経営規模の拡大や集落営農組織・農地所有適格法人の設立・育成支援等に取り組むこととする。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本市においては、恵まれた気象条件、河川流域に形成された肥沃な耕地と水利条件のもとで、古くから稲作中心の農業が営まれてきた。日本有数の米どころであることに加え、大豆、枝豆、アスパラガス、しいたけなどの高品質な農産物を首都圏向けに供給しているが、農業従事者の減少や高齢化、米に偏った生産構造であることにより、農業産出額は米価が高値で推移している近年を除くと減少傾向にある。

こうした状況のなかで、基幹産業である農業を安定的に将来につないでいくためには、複合型生産構造への転換を進めていく必要がある。大仙市の強みである米づくりに加え、大豆など既に生産振興を行っている作物のほか、需要を背景に取り組む新たな作物など、複合経営の推進と拡大を着実に進めることで、収益力の強化を図る。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

当市では、高齢化が進み後継者不足が最大の懸案事項となっている。そこで、後継者育成のため、新規就農者研修支援による後継者育成や、法人をはじめとする担い手への農地中間管理機構を活用しての農地の利用集積等を図っている。

当市においては、主食用米からの作付転換に向けた作物としては、大豆やそばなどを重点作物として定め、大豆、そばの産地化を目指し市独自の支援を行っている。なお、そばの作付を行っている水田については、山間地域に面している傾向がある。

こうした中、令和５年度から一部地域において、水田から畑地化へ転換する生産者も出始めており、当市としては、生産者の今後の意向を基に、野菜などの高収益作物や飼料作物など、作物の固定化が見込まれる水田については、周辺水田への影響や土地改良区など関係機関との連携を綿密にして、畑地化への転換を図っていく。

また、ほ場整備事業を実施したほ場で作付が拡大している大豆を中心に、水稲を交えた

ブロックローテーションの取組について農業者及び関係機関と検討していく。

４　作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

直播栽培の実証ほ場を設置し、低コスト生産技術の導入を支援しながら、需要に応じた作付けを推進する。

関係機関との連携協力のもと、消費者・実需者ニーズを的確かつ迅速に把握することにより、需要に応じた「売れる米づくり」の推進を図る。また、直播栽培などの普及・定着やＩＣＴ（情報通信技術）を活用した減肥技術の確立などによる水稲生産の低コスト・省力化を推進する。

（２）備蓄米

政府備蓄米については、都道府県の優先枠を基本とし、稲作経営の安定と水田維持に有効な手段であり、取組者及び集荷業者と連携し継続して推進する。

（３）非主食用米

ア　飼料用米

飼料用米については、近年の米価上昇に伴う主食用米の作付け機運の高まりにより面積が減少となっている。今後も引き続き、水稲作付技術を活かした転作作物とし生産コストの低減に向けた取り組みの他、専用品種による作付けを推奨しながら、実需者への安定供給を目指し、作付面積の維持を推進していく。

イ　米粉用米

近年の米価上昇に伴う主食用米の作付け機運の高まりにより面積が減少となっているが、水稲作付技術を活かした転作作物につながることから、今後も実需者への安定供給を向けて国の交付金等を活用して、作付面積の維持に向けて推進する。

ウ　新市場開拓用米

近年の米価上昇に伴う主食用米の作付け機運の高まりがあるものの、加工用米、備蓄米、飼料用米、米粉用米、酒造用玄米、種子用を除く米穀の消費を国内のみではなく国外の市場でも開拓していく必要がある。また、安定的な供給を行っていくため、複数年契約の取組を推進する。

エ　ＷＣＳ用稲

高栄養価の飼料として需要がある稲発酵粗飼料用稲（ホールクロップサイレージ用稲）については、畜産農家、耕種農家が需給情報の提供等で連携し、安定的に供給を図れるような体制づくりを構築し、作付拡大を推進する。

オ　加工用米

近年の米価上昇に伴う主食用米の作付け機運の高まりにより面積が減少となっているが、水稲作付技術を活かした転作作物につながることから、米どころの経験を活かし、国の交付金を活用しながら引き続き加工用米を推進する。また、集荷業者を通じて県外大手企業への販売や流通を強化した安定供給を実施するため、需給情報を踏まえ計画的に生産する。

（４）麦、大豆、飼料作物

麦については、作付面積が減少傾向にあるが、今後も需要が見込まれることから、作付面積の拡大を推進していく。

大豆については、土地利用型作物における重点作物と位置付け、高品質で安定的な一定収量を確保して販売につなげていくことで、水田フル活用と農業所得の確保を図る。そのために、産地交付金を活用しながら大規模団地の造成とブロックローテーションを推進し、作業の効率化を通じたコスト低減、高収量・高品質化を推進する。【目標：[収量] 220kg/10a 以上 [品質] 1・2 等割合　80%以上】

飼料作物については、環境保全の観点からさらに拡大を図るとともに、購入飼料に偏ることなく、地域の自給飼料を活用し、耕種農家と畜産農家等の結びつきを強化しながら、安定的な供給が図られるよう推進する。

（５）そば、なたね

中山間地域などの条件不利地における水田を有効に活用するため、土地利用型作物で中山間地域での好適作物とされる「そば」、「なたね」の作付け及び出荷を推進し、水稲に代わる作物の取り組みを支援する。

特に「そば」については、当協議会において「大豆」とともに、水稲に替わる土地利用型の戦略作物と位置付け、農業者の生産栽培管理を支援しながら安定的な販売を定着させるための取り組みを推進する。また、単収が伸び悩んでいることから国からの産地交付金を活用して集積を図り、栽培技術の平準化と所得向上を目指す。

（６）地力増進作物

これまで当協議会では、基盤整備事業によって整備される大区画ほ場に対して、翌年度以降の作物の収益力向上を目的に、ほ場の透水性や土壌環境等の改善を期待して地力増進作物の作付を行ってきたところであり、今後も継続して実施していく。

さらに、令和４年度以降から基盤整備事業以外のほ場において、地力増進作物に取り組み、その翌年度に国の戦略作物や当協議会で産地交付金の交付対象としている園芸作物、その他作物（別紙２）に取り組む農業者に対しても、産地交付金を活用して助成しており、不作付地の解消と、販売作物の推進による農業者の収入増加に結びつけていきたい。

なお、地力増進作物としては、イタリアンライグラス、エン麦、ライ麦を推奨していく。

（７）高収益作物

市場において最も販売実績のある品目であり、第５次大仙市農業振興計画においても販売額の拡大に向けた取組を支援することとしている「えだまめ、ねぎ、アスパラガス、トマト、ミニトマト、花き、しいたけ、にんにく、ほうれんそう、いちご、だいこん、たばこ」のほか、県重点推進野菜となっているきゅうり、すいかを園芸振興作物として設定し、一定の生産量を確保し卸売市場に働きかけることで、大仙市産ブランドとして確立していく。このため、産地交付金を活用しながら作付面積の拡大を推進するとともに、コスト削減や生産技術の平準化による安定供給を目指し、土地集積による拡大を図る。

種なし大粒ぶどう、ブルーベリーなど需要の見込める樹種を果樹における振興作物とし、取り組みを進める。また、既に植栽されている果樹については高値販売に向け、品質向上への取り組みを図る。

その他の高収益作物についても、需要に応じた米生産に対応するための有効な作物であることから、収益力向上に資する取り組みを励行し、収益力の増加を推進す

る。令和５年度からは、その他の高収益作物として生薬として出荷する「シャクヤク」、「モッコウ」を加えることにより、生産者の米生産以外の取組作物の選択肢を広げていく。

５ 作物ごとの作付予定面積等

（単位:ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
主食用米	12,009.0	0.0	11,653.2	0.0	10,652.5	0.0
備蓄米	0.0	0.0	413.9	0.0	372.5	0.0
飼料用米	99.9	0.0	94.9	0.0	267.1	0.0
米粉用米	0.5	0.0	0.5	0.0	59.5	0.0
新市場開拓用米	31.7	0.0	21.7	0.0	87.3	0.0
WCS用稲	312.7	0.0	297.1	0.0	460.5	0.0
加工用米	521.3	0.0	521.3	0.0	860.2	0.0
麦	20.7	0.0	20.7	0.0	23.7	0.0
大豆	1,219.5	0.0	1,230.0	0.0	1,489.9	0.0
飼料作物	381.0	0.0	361.0	0.0	389.6	0.0
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
そば	275.4	0.0	271.6	0.0	279.6	0.0
なたね	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0
地力増進作物（ほ場整備）	103.1	0.0	96.9	0.0	100.0	0.0
地力増進作物（高収益作物等への転換）	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0
高収益作物	270.6	0.0	307.0	0.0	281.7	0.0
・野菜	236.9	0.0	270.4	0.0	247.2	0.0
えだまめ	100.7	0.0	120.8	0.0	114.7	0.0
ねぎ	22.0	0.0	26.4	0.0	21.6	0.0
アスパラガス	10.4	0.0	11.1	0.0	14.4	0.0
トマト	6.4	0.0	6.8	0.0	5.9	0.0
ミニトマト	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
にんにく	8.6	0.0	9.1	0.0	9.0	0.0
だいこん	28.1	0.0	29.8	0.0	26.8	0.0
しいたけ	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0
きゅうり	1.3	0.0	1.4	0.0	1.9	0.0
すいか	3.1	0.0	3.3	0.0	3.3	0.0
いちご	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
ほうれんそう	1.5	0.0	1.6	0.0	2.4	0.0
なす	1.8	0.0	2.0	0.0	2.4	0.0
ピーマン	0.2	0.0	0.2	0.0	0.3	0.0
かぼちゃ	12.3	0.0	13.5	0.0	3.8	0.0
メロン	0.7	0.0	0.7	0.0	0.8	0.0
キャベツ	3.0	0.0	3.3	0.0	2.5	0.0
はくさい	1.6	0.0	1.7	0.0	3.1	0.0
ばれいしょ	1.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0

５ 作物ごとの作付予定面積等

（単位:ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
たまねぎ	10.9	0.0	11.9	0.0	8.3	0.0
レタス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
にんじん	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
さといも	1.9	0.0	2.1	0.0	1.8	0.0
しょうが	0.1	0.0	0.1	0.0	1.9	0.0
とうもろこし	3.2	0.0	3.5	0.0	3.5	0.0
カリフラワー	0.3	0.0	0.3	0.0	0.2	0.0
小松菜	0.2	0.0	0.2	0.0	0.3	0.0
いんげん	0.2	0.0	0.2	0.0	0.3	0.0
さやえんどう	0.1	0.0	0.1	0.0	0.4	0.0
しそ	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0
春菊	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
じゅんさい	0.4	0.0	0.4	0.0	0.7	0.0
ズッキーニ	0.8	0.0	0.9	0.0	0.7	0.0
せり	0.3	0.0	0.4	0.0	0.4	0.0
そらまめ	5.0	0.0	5.5	0.0	5.4	0.0
たらの芽	0.6	0.0	0.7	0.0	0.7	0.0
ふき	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ブロッコリー	3.6	0.0	4.0	0.0	2.6	0.0
ウド	0.2	0.0	0.2	0.0	0.3	0.0
山の芋	0.2	0.0	0.3	0.0	0.9	0.0
あさつき	0.4	0.0	0.4	0.0	0.2	0.0
オクラ	0.2	0.0	0.3	0.0	0.1	0.0
ごぼう	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0
さつまいも	0.8	0.0	0.9	0.0	0.7	0.0
サニーレタス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
モロヘイヤ	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0
ワラビ	0.5	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0
つるむらさき	0.4	0.0	0.5	0.0	0.9	0.0
プチヴェール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
マコモダケ	1.8	0.0	1.9	0.0	1.0	0.0
食用菊	0.1	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0
みょうが	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
にら	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
スナップエンドウ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
金糸瓜	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
キクイモ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

５ 作物ごとの作付予定面積等

（単位:ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
ギョウジャニンニク	0.5	0.0	0.5	0.0	0.3	0.0
よもぎ	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
木の芽（ｻﾝｼｮｳの若芽）	0.5	0.0	0.6	0.0	0.5	0.0
こごみ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
・花き・花木	25.2	0.0	26.7	0.0	26.3	0.0
菊	2.4	0.0	2.5	0.0	2.6	0.0
小菊	1.5	0.0	1.6	0.0	1.4	0.0
輪ギク	0.2	0.0	0.3	0.0	0.2	0.0
ダリア	1.6	0.0	1.7	0.0	2.2	0.0
トルコギキョウ	2.8	0.0	3.0	0.0	3.1	0.0
りんどう	10.3	0.0	10.9	0.0	10.2	0.0
アスター	0.4	0.0	0.4	0.0	0.5	0.0
スナップ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ひまわり	0.2	0.0	0.2	0.0	0.5	0.0
スノーボール	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0
アリウムヘアー	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
リアトリス	0.4	0.0	0.4	0.0	0.2	0.0
スカビオサ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ベンケイソウ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
マリーゴールド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サルビア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ベコニア	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
カンパニュラ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
オーニソガラム	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
オミナエシ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
カーネーション	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ケイトウ	1.1	0.0	1.2	0.0	1.1	0.0
スターチス	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0
シンビジウム	0.6	0.0	0.6	0.0	0.6	0.0
ユリ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ダスティーミラー	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
シオン	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0
グラジオラス	2.2	0.0	2.3	0.0	2.2	0.0
キンギアナム	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
バラ	0.5	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0
ブルーファンタジア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
カトレア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

５ 作物ごとの作付予定面積等

（単位:ha）

作物等		前年度作付面積等	うち二毛作	当年度の作付予定面積等	うち二毛作	令和８年度の作付目標面積等	うち二毛作
	アルストロメリア	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0
	葉ボタン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	・果樹	0.9	0.0	2.3	0.0	2.4	0.0
	ぶどう	0.1	0.0	0.4	0.0	1.6	0.0
	ブルーベリー	0.8	0.0	2.0	0.0	0.8	0.0
	りんご	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
	もも	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	おうとう	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	うめ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	・その他の高収益	7.6	0.0	7.6	0.0	5.8	0.0
	たばこ	3.6	0.0	3.6	0.0	4.0	0.0
	ハトムギ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小豆(白小豆含む)	4.0	0.0	4.0	0.0	1.5	0.0
	シャクヤク（生薬）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
	モッコウ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0
その他		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
畑地化		29.7	0.0	9.1	0.0	1.0	0.0

６ 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	大豆（基幹作物）	大豆大規模団地化支援	作付面積 （交付面積） 10a当たり収穫量	（令和７年度） 1,215.7ha （777ha） 181kg/10a	（令和８年度） 1,230.0ha （785ha） 220kg/10a
2	アスパラガス、トマト、ミニトマト、にんにく、だいこん、しいたけ（基幹作物）、きゅうり、すいか、いちご、ほうれんそう	園芸振興作物土地集積支援	交付面積	（令和７年度） 30.1ha	（令和８年度） 16.3ha
3	ぶどう・ブルーベリー（基幹作物）	新しい果樹産地づくり支援	対象面積 作付面積	（令和７年度） 0.9ha 4.6 ha	（令和８年度） 2.3ha 8.9 ha
4	そば（基幹作物）	そば土地集積支援	作付面積 （集積面積） （集積率） （10a当たり収量）	（令和７年度） 267.8ha （197.5ha） （74%） （68kg/10a）	（令和８年度） 262.8ha （197.1ha） （75%） （54kg/10a）
5	アスパラガス、トマト、ミニトマト、花き（別紙１のとおり）、にんにく、だいこん、しいたけ、たばこ（基幹作物）、きゅうり、すいか、いちご、ほうれんそう	園芸振興作物支援	作付面積 販売額	（令和７年度） 160.5ha 657百万円	（令和８年度） 73.9ha 32百万円
6	野菜、果樹、その他（別紙２のとおり）（基幹作物）	その他作物支援	作付面積 販売額	（令和７年度） 51.3ha 284百万円	（令和８年度） 56.4ha 313百万円
7	地力増進作物（イタリアンライグラス、えん麦、らい麦）（基幹作物）	土づくり（ほ場整備）支援	作付面積	（令和７年度） 99.6ha	（令和８年度） 96.9ha
8	そば・なたね（基幹作物）	そば、なたね作付けの取組支援（国枠）	作付面積 そば作付面積 なたね作付面積	（令和７年度） 267.8ha 267.8 ha 0.0 ha	（令和８年度） 262.8 ha 262.8 ha 1.0 ha
9	飼料作物（多年生牧草（オーチャードグラス、リードカナリーグラス、チモシー、混播牧草）のうち播種を行わず収穫のみ）（基幹作物）	飼料作物大規模作付支援	交付対象面積 飼料作物作付面積 前年度飼料作物作付面積	（令和７年度） 4.7ha 374.7ha 12.1ha	（令和８年度） 5.6ha 374.7ha 4.7ha
10	地力増進作物（イタリアンライグラス、えん麦、らい麦）（基幹作物）	土づくり（高収益作物等への転換）支援（国枠）	作付面積	（令和７年度） 0.0ha	（令和８年度） 1.0ha
11	えだまめ、ねぎ	重点園芸振興作物支援	作付面積 販売額	（令和７年度） 122.7ha 502百万円	（令和８年度） 147.2ha 602百万円

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
※　目標期間は３年以内としてください。

7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：秋田県

協議会名：大仙市農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 （円/10a）	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	大豆大規模団地化支援	1	［団地規模］10ha以上　12,000 ［団地規模］4ha以上10ha未満　3,000	大豆	実需者と出荷・販売契約を締結し、収穫、販売を行う。 4ha以上10ha未満、または10ha以上の団地を形成し、生産性向上に関する取組を行う。 ※農林業センサスにおける中間農業地域及び山間農業地域については、4haを3haに、10haを7.5 haに読み替える
2	園芸振興作物土地集積支援	1	［露地栽培］4ha以上　8,000 ［施設栽培］1ha以上　12,000	アスパラガス、トマト、ミニトマト、にんにく、だいこん、しいたけ、きゅうり、すいか、いちご、ほうれんそう	対象作物の収穫、販売を行う。 露地栽培においては4ha以上、施設栽培においては1ha以上を集積している。
3	新しい果樹産地づくり支援	1	8,000	ぶどう、ブルーベリー	対象作物の収穫、販売を行う。
4	そば土地集積支援	1	6,000	そば	対象作物の出荷・販売契約を締結し、収穫、販売を行う。 3ha以上集積している。
5	園芸振興作物支援	1	［露地栽培］　7,000 ［施設栽培］　10,000	アスパラガス、トマト、ミニトマト、花き（別紙1のとおり）、にんにく、だいこん、しいたけ、たばこ、きゅうり、すいか、いちご、ほうれんそう	対象作物の収穫、販売を行う。
6	その他作物支援	1	［露地栽培］　3,000 ［施設栽培］　5,000	野菜、果樹、その他　（別紙2のとおり）	対象作物の収穫、販売を行う。
7	土づくり（ほ場整備）支援	1	20,000	地力増進作物（イタリアンライグラス、えん麦、らい麦）	地力増進作物を作付けし、肥培管理（は種、畦畔の除草）を実施した後ほ場へのすき込みを行うこと。 ほ場整備事業面工事施工後、直近1年間のみ助成対象。
8	そば、なたね作付けの取組支援（国枠）	1	20,000	そば、なたね	対象作物の収穫、販売を行う。
9	飼料作物大規模作付支援	1	5,000	飼料作物（多年生牧草のうち播種を行わず収穫のみ）	対象作物を収穫し、実需者に供給を行う。 作付面積が3ha以上である。
10	土づくり（高収益作物等への転換）支援（国枠）	1	20,000	地力増進作物（イタリアンライグラス、えん麦、らい麦）	地力増進作物を作付けし、肥培管理（は種、畦畔の除草）を実施した後ほ場へのすき込みを行う。 取組後次年度に戦略作物、園芸振興作物、その他作物の取組を行う。
11	重点園芸振興作物支援	1	9,000	えだまめ、ねぎ	対象作物の収穫、販売を行う。 排水対策、適切な土壌管理、適期防除の実施のいずれかの取組を行う。

※1　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携）」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。

※2　「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3　産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4　産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

別紙1

花き	
菊	オーニソガラム
小菊	オミナエシ
ダリア	カーネーション
トルコギキョウ	ケイトウ
りんどう	スターチス
アスター	シンビジウム
スナップ	ユリ
ひまわり	ダスティーミラー
スノーボール	シオン
スカビオサ	グラジオラス
アリウムヘアー	キンギアナム
リアトリス	バラ
ベンケイソウ	ブルーファンタジア
マリーゴールド	カトレア
サルビア	アルストロメリア
ベコニア	葉ボタン
カンパニュラ	

花きの品種については、作期拡大に向けた複数品種の導入を推進するため選定した。

別紙2

野菜		果樹	その他
なす	ふき	りんご	ハトムギ
ピーマン	ブロッコリー	もも	小豆（白小豆含む）
かぼちゃ	山ウド	おうとう	シャクヤク（生薬）
メロン	山の芋	うめ	モッコウ（生薬）
キャベツ	あさつき		
はくさい	オクラ		
ばれいしょ	ごぼう		
たまねぎ	さつまいも		
レタス	サニーレタス		
にんじん	モロヘイヤ		
さといも	ワラビ		
しょうが	つるむらさき		
とうもろこし	プチベール		
カリフラワー	マコモダケ		
小松菜	食用菊		
さやいんげん	みょうが		
さやえんどう	にら		
しそ	スナップエンドウ		
春菊	金糸瓜		
じゅんさい	キクイモ		
ズッキーニ	ギョウジャニンニク		
せり	よもぎ		
そらまめ	木の芽（サンショウの若芽）		
たらの芽	こごみ		